



## 磁 界

政本貴久子

(広島)

新婚の小さな家の窓を開け菜の花畑ずっと菜の花

親の縁薄き人ばかり引き寄せる磁界あるらし友、夫、われも

ままごとのようにパパママ犬と猫幼児ふたりの家族になった

犬猫の眠れる庭に白い猫モンローウオーク尻尾を立てる

シャイな夫が遺してくれた宝物「幸せだった、感謝」のメール

パセリ植え母さん黄揚羽来るを待つ マザーズデイは今も苦手だ

大丈夫親はなくとも子は育つカラフル芋虫角を出したり

継母<sup>は</sup>と来たおかつぱ頭の女の子すぐに気が合い友でいもうと

いもうとと共に入居は楽しかろ「サ高住」検索まだ先だけど

老後とか悩まずあるがままに生く「老子」のような顔の猫たち

一〇〇万回生きた気がして縄文の土偶の顔に見覚えがある

藤原の大宮どころ菜の花を揺らした風はどこへ行ったか

今が好き遊びごころと知識欲まだあり暫し老いを楽しむ

青鷺や赤ちゃん鴨に声をかけ早朝ウォークこちよき風

思い出の夫はどんな若くなりイケメンになるわたし好みの

このごろの私

三年三ヶ月続いたコロナもようやく収束に向かっている。その間に私は後期高齢者になり、健康寿命も過ぎてしまった。気持と足はまだ若くありたいと、せせらぎへのウォーキングは続けています。



## センダイスゲ

高野 哲司  
(兵庫)

このごろの私  
毎日、野草の標本を作製する  
ために新聞紙を替えています。  
採集に備えて、鉢と袋は  
いつも持っています。足元の  
小さな野草を後世に残すため  
に野草の調査研究、保護啓発  
活動に取り組んでいます。

ランナーに「微笑みのしわ」刻みゆくセンダイスゲはセンチナリアン  
小春日はセンダイスゲの杜へ行き観望気力養ふ

ヤマモモの実がほろほろと落ちてきて教へてくれる「もう初夏ですよ」

砂浜のハマアオスゲの生き甲斐はウミガメの孵化見届けること

砂浜のハマダイコンの想ひ出は牧野博士と出逢ひし夕べ

震災で崩れなかつた石垣にヒヨウタンボクの紅き実を観る

ケンケンパ、缶ぼつくりにおままごと仲よし小道ドクダミの道

またひとつ「マチエール」が生まれゆくアオイゴケの葉描く筆先

イヌビワにホンバイヌビワ、ケイヌビワ琵琶の杜なり牧野公園

震災で崩れなかつた石段にアオイゴケの実たわわに穰る

君貢神社きみつぎの参詣道の石段にさやかに生ふるアオイゴケ達

小さな千成瓢箪のかたちして穰りゆくなりヒヨウタンボクの実

明石城ライトアップのプロジェクト「マイホーム」つぶすハイニガナ達の

「植物採集行進曲」を口ずさむ例へばチガヤの根を洗ふ時

野草への研究心がめぶきゆく牧野図鑑のいと厚きこと